

防災・安全ニュース

VOL. 42

危機管理課

2026年10月号

電話：65-1282

猛暑であった今年の夏も過ぎ、朝晩の気温で秋を感じるようになってきましたので、衣替えのタイミングをうまく図ってください。

では、今月号もよろしくお願いいたします。今月号のトピックスは次のとおりです。

- ・ 台風への備え
- ・ 交通ヒヤリハット
- ・ 観天望気

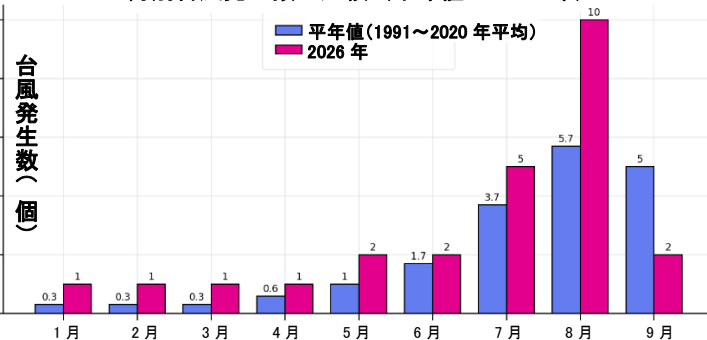
台風への備え

今年の台風の発生数は既に 26 個となっており、年間の平均発生数（1991 年～2020 年）である 25.1 個を上回っています。

10 月は引き続き台風シーズンで、下のグラフにはありませんが平均発生数は 3.4 個です。台風は、地震のように突然日本に被害を与えることはありません。このため、数日前から備えることができるので、**あらかじめマイタイムライン**（下の URL から参照）**を作成**

しておき、台風の発生情報を耳にされた場合は、TV やスマートフォンで気象情報を積極的に入手し、早めの避難につなげられるようにしましょう。

月別台風発生数の比較（平年値と 2026 年）



※ 気象庁の情報からAIで作成

マイ・タイムラインとは（新居浜市 HP）

→ <https://www.city.niihama.lg.jp/soshiki/kikikanri/my-timeline.html>

交通ヒヤリハット

ハインリッヒの法則（1:29:300の法則）をご存じの方も多いと思います。これは、「1件の重大事故の背後には29件の軽微な事故と300件のヒヤリハットが存在する。」というものです。このため、ヒヤリハットを減らす取り組みを継続することが重大事故の発生防止につながります。

しかし、ヒヤリハットは実際の事故には至らなかった事象であるため、「たまたま事故を回避できた」、「運良く大事に至らなかった」として済まされてしまうことが少なくありません。また、適切な要因分析や再発防止策の検討が行われないうちに、「良かったね」で終わってしまったり、当事者だけの経験として埋もれてしまったりすることも多いのが実情です。

事故防止のためには、公開されているヒヤリハット事例から学び、その経験を自分自身の業務や日常生活に活かすことが重要です。ぜひ以下のサイトをご覧ください、安全意識の向上にお役立てください。

交通ヒヤリハット事例集を紹介（JAF交通安全トレーニング）

→ <https://jaf-training.jp/column/safe-driving-supervisors/traffic-nearmiss-case/>

かんてんぼう き 観天望気

観天望気をご存じでしょうか。観天望気というのは、空の様子や風、生き物の動きなどから天気を予測する昔からの知恵です。

例えば、次のようなものがあります。

夕焼けは晴れ：日本付近の天気は西から東へ動くため、西の空が晴れていれば翌日も晴れやすくなる。

ツバメが低く飛ぶ：湿度が高くなってエサの虫が低く飛ぶため、雨が近い。

山に笠雲がかかる：湿った風が流れ込んでいる証拠で、雨が降りやすくなる。

これらは、実際に科学的（気象学的）に説明できるものがたくさん

んあって、あながち間違いではありません。人と会話するときに話題がないと、「今日は天気がいいですね。」ぐらいの話しかできない時がありますが、ちょっと覚えて話題を膨らませられるようにしてみるのもいいかもしれません。**興味のある方は、次のサイトを覗いてみてください。**

いちごドリル 天気のことわざ (ARINA partners株式会社 HP)

→ <https://ichigo-drill.jp/tenki-kotowaza>

【編集後記】

今月も防災・安全ニュースを最後までご覧いただきまして、ありがとうございました。

今月14日は鉄道の日です。これは、明治5年(1872年)10月14日に新橋ー横浜間で日本初の鉄道が開業したことを記念して平成6年(1994年)に制定されたものです。そこで私の鉄道の思い出といえば、小学生の頃に新幹線の食堂車でカレーライスを食べたことをとてもよく憶えています。現在の新幹線に食堂車はありませんが、旅の思い出作りに、たまに走らせてもらおうと個人的には嬉しいです。(N.O)